

授業科目名 在宅看護総論

第二看護学科

2年次 後期

1単位 (30時間)

### I. 授業の目的・目標 (ねらい)

- |    |   |
|----|---|
| 目的 | 1) 在宅看護の概念と変遷について理解する。<br>2) 在宅看護の活動の場と役割について理解する。<br>3) 在宅ケアサービスとシステムについて理解する。<br>4) 在宅看護における看護の意義と役割を認識する。                          |
| 目標 | 1) 社会の変化と在宅看護の必要性について理解できる。<br>2) 在宅看護の特徴と在宅療養者および家族について理解する。<br>3) 在宅看護、地域看護、継続看護のそれぞれの特徴について理解する。<br>4) ケアマネジメントの重要性と看護の役割について理解する。 |

### II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	在宅看護の考え方	講義	
2	地域看護と在宅看護・継続看護		
3	在宅看護の歴史と現状		
4	訪問看護とは		
5	訪問看護活動の形態		
6	在宅看護の対象者		
7	在宅看護の対象者と介護者の特徴		
8	訪問看護制度 (医療保険法と介護保険法)	演習	
9	施設から在宅への看護		
10	関係職種と社会資源		
11	ケアマネジメント		
12	在宅における看護過程		
13	初回訪問		
14	感染予防・安全対策		
15	在宅から施設への看護		

### III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版  
国民衛生の動向 厚生労働統計協会

### IV. 成績評価方法

筆記試験

授業科目名 在宅看護方法論Ⅰ	第二看護学科 2年次 後期 1単位(30時間)
----------------	-------------------------------

### I. 授業の目的・目標 (ねらい)

目的	1) 在宅療養者の特徴を理解し、病期や状況に応じて必要な生活支援の方法と技術を学ぶ。 2) 在宅看護における看護の意義と役割を認識する。
目標	1) 在宅療養者とその家族への日常生活の援助の工夫について理解できる。 2) 在宅における医療管理を必要とする人の看護について理解できる。

### II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	フィジカルアセスメント	講義	
2	住環境・清潔・服薬指導		
3	コミュニケーション・移動	演習	
4	在宅中心静脈栄養法 (HPN)	講義	
5	食事・在宅経管栄養法 (PEG) 経管栄養法	*演習	
6	排泄・膀胱留置カテーテル、自己導尿	講義	
7	腹膜透析 (CAPD)		
8	在宅酸素療法 (HOT)		
9	在宅人工呼吸器療法		
10	気管内吸引	*演習	
11	在宅での終末期看護の実際	講義	
12	在宅での終末期看護の実際		
13	在宅でのリハビリテーション①関節可動域訓練	講義・演習	
14	在宅でのリハビリテーション②車椅子移乗		
15	在宅でのリハビリテーション③呼吸訓練		

### III. 使用テキスト参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア	メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術	メディカ出版
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第3版	医学書院

### IV. 成績評価の方法

筆記試験、出席状況 *経管栄養法、吸引の技術は学内演習を必須とする看護技術のため、欠課の場合、補習が必要となる。
---

授業科目名 在宅看護方法論Ⅱ	第二看護学科 3年次 前期 1単位（30時間）
----------------	-------------------------------

### I. 授業の目的・目標（ねらい）

目的	1) 在宅看護の対象と対象の健康の課題について理解する。 2) 在宅看護の対象者と家族の抱える介護上の問題について理解する。 3) 地域包括ケアシステムにおける在宅看護の位置付けを理解する。 4) 在宅看護における看護の意義と役割を認識する。
目標	1) 在宅における看護展開の方法について理解できる。 (1) 情報収集の目的・内容が理解できる。 (2) 在宅療養者の問題点が理解でき、長期・短期の目標を明確にできる。 (3) 家族の持つ療養上の強みを知り、具体策が考えられる。 2) 訪問看護の役割と実際について理解できる。 3) 医療支援センターの役割・機能と看護の実際について理解できる。 4) 褥瘡の予防ケア及び看護の実際について理解できる。

### II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	看護過程の展開（事例演習）：情報の読み取り①	演習	
2	看護過程の展開（事例演習）：情報の読み取り②		
3	看護過程の展開（事例演習）：情報の読み取り③		
4	看護過程の展開（事例演習）：アセスメント①		
5	看護過程の展開（事例演習）：アセスメント②		
6	看護過程の展開（事例演習）：アセスメント③		
7	看護過程の展開（事例演習）：看護上の問題点		
8	看護過程の展開（事例演習）：看護目標・看護計画		
9	看護過程の展開（事例演習）：看護の実際1		
10	看護過程の展開（事例演習）：看護の実際2		
11	看護過程の展開（事例演習）：看護の実際3		
12	看護過程の展開（事例演習）：看護の実際4		
13	訪問看護ステーションの実際		
14	地域医療連携の実際		
15	褥瘡ケアの実際		

### III. 使用テキスト参考文献

ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア	メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術	メディカ出版
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第2版	医学書院

### IV. 成績評価の方法

提出物、出席状況、レポート
---------------

授業科目名 統合看護総論Ⅰ：医療安全・看護倫理	第二看護学科 2年次 後期 1単位（30時間）
-------------------------	-------------------------------

### I. 授業の目的・目標（ねらい）

目的	医療安全・看護倫理が理解できる。
目標	1) 看護行為、医薬品、医療器具、患者に存在する危険を認識する能力を持つことの重要性を理解する。 2) 看護事故の発生要因を知り、防止策について理解する。 3) 感染管理の基礎的知識を学ぶ。 4) 医療・看護における倫理とあり方について理解する。

### II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	医療安全：医療安全の概念と安全行動について 医療事故防止	講義	
2	医療安全：診療の補助行為における事故事例と対策 療養上の世話における事故事例と対策		
3	医療安全：看護職の責任と法的責任		
4	医療安全演習：看護に必要な計算	講義・演習	
5	医療安全演習：ヒヤリハット体験		
6	医療安全演習：医薬品、医療機器の知識		
7	医療安全演習：リスクトレーニング		
8	感染管理	講義	
9	医療における倫理	講義・演習	
10	看護倫理：医療・看護の倫理原則について（その1）		
11	看護倫理：医療・看護の倫理原則について（その2）		
12	看護倫理：医療・看護の倫理原則について（その3）		
13	看護倫理：患者の権利		
14	看護倫理：擁護者としての看護者の役割（その1）		
15	看護倫理：擁護者としての看護者の役割（その2）		

### III. 使用テキスト・参考文献

<p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ①看護学概論 メディカ出版          系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔2〕医療安全 医学書院          系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院          川村治子著 医療安全ワークブック 医学書院          よくわかる看護職の倫理綱領 第3版 照林社</p>
--

### IV. 成績評価の方法

筆記試験、レポート、出席状況
----------------

授業科目名 統合看護総論Ⅱ：看護管理・災害看護	第二看護学科 3年次 後期 1単位（30時間）
-------------------------	-------------------------------

### I. 授業の目的・目標（ねらい）

目的	看護管理・国際看護・災害看護が理解できる。
目標	1) チーム医療での他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップについて理解する。 2) 看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 3) 国際社会の現状を学び、看護師としての役割を考える。 4) 災害看護の基礎的知識を身につけ、方法について理解する。

### II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義 演習	備 考
1	看護管理とは	講義	
2	看護管理の基本となるもの		
3	看護師の仕事とその管理・看護の質向上と保障		
4	看護管理に求められる能力看護職とキャリア		
5	看護職とキャリア看護と経営看護活動を取り巻く法律		
6	国際看護： グローバルな視点で看護を考えるために必要な基本的知識の導入		
7	災害看護概論	講義 演習	
8	災害各期における被災者の特徴と看護活動（その1）		
9	災害各期における被災者の特徴と看護活動（その2）		
10	救急法・救急看護（その1）	講義	
11	救急法・救急看護（その2）		
12	心肺蘇生法・AED（その1）	演習	
13	心肺蘇生法・AED（その2）		
14	包帯法、災害時の応急処置（その1）	講義 演習	
15	包帯法、災害時の応急処置（その2）		

### III. 使用テキスト・参考文献

<p>ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 メディカ出版          系統看護学講座 看護の統合と実践〔3〕 災害看護学・国際看護学 医学書院          系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論          ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版          参考文献：系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学</p>
--

### IV. 成績評価の方法

<p>筆記試験、レポート、出席状況          ＊「包帯法、災害時の応急処置」の救命救急処置技術（止血法）を欠課した場合、補習が必要となる。</p>
---

授業科目名 統合看護方法論Ⅰ：看護研究

第二看護学科

3年次 前期

1単位（30時間）

### I. 授業の目的・目標（ねらい）

目的 看護研究が理解でき、ケーススタディで看護を深めることができる。

- 目標
- 1) 看護研究の意義や必要性について理解できる。
  - 2) 看護研究の種類やその実際/倫理的配慮について理解できる。
  - 3) 文献検索の方法を知り、必要な文献を探すことができる。
  - 4) ケーススタディの実施方法を理解し、個人で計画的に取り組むことができる。

### II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	研究とは 看護研究とは	講義・演習	
2	研究の種類とそのプロセス		
3	文献検索 文献の読み方		
4	文献検索の実際 看護論について		
5	ケーススタディとは		
6	研究計画書		
7	ケーススタディのオリエンテーション		
8	看護研究の実際（ケーススタディの指導日①）		
9	看護研究の実際（ケーススタディの指導日②）		
10	看護研究の実際（ケーススタディの指導日③）		
11	ケーススタディ発表①		
12	ケーススタディ発表②		
13	ケーススタディ発表③		
14	ケーススタディ発表④		
15	県下看護学校研究発表会参加		

### III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ①看護学概論 メディカ出版

### IV. 成績評価の方法

参加状況、提出物

授業科目名 統合看護方法論Ⅱ：統合演習

第二看護学科  
3年次 前期  
1単位（30時間）

I. 授業の目的・目標（ねらい）

目的 複数患者を受け持ち、安全な看護を提供するために、知識・技術を統合し、看護を展開する方法について理解できる。

- 目標
- 1) 必要な情報を収集することにより、患者の現在の状態に応じた看護を考えられる視点を身につけ、看護業務遂行のためのタイムマネジメントができる。
  - 2) 複数患者を受け持ち、同時多重課題への対処が考えられ、行動できる。
  - 3) 医療チームの一員としてのマネジメントが理解できる。
  - 4) 演習を通して自己学修へ向かうことができる。

II. 授業計画

回	授業内容	講義・演習	備考
1	ガイダンス	講義・演習	
2	複数患者の情報収集とタイムマネジメント		
3	演習①（複数患者を受け持つ看護場面）： オリエンテーション		
4	演習①：ミニカンファレンス		
5	演習①：検温、SBAR		
6	演習①：まとめ		
7	演習②（多重課題）：オリエンテーション		
8	演習②：演習（その1）		
9	演習②：演習（その2）		
10	演習②：まとめ		
11	統合看護実習に向けて 実習記録の書き方		
12	演習③（臨床場面を取り上げた演習）： オリエンテーション		
13	演習③：演習（その1）		
14	演習③：演習（その2）		
15	演習③：まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版  
川村治子著 医療安全ワークブック 医学書院

IV. 成績評価の方法

出席状況、参加状況、提出物